

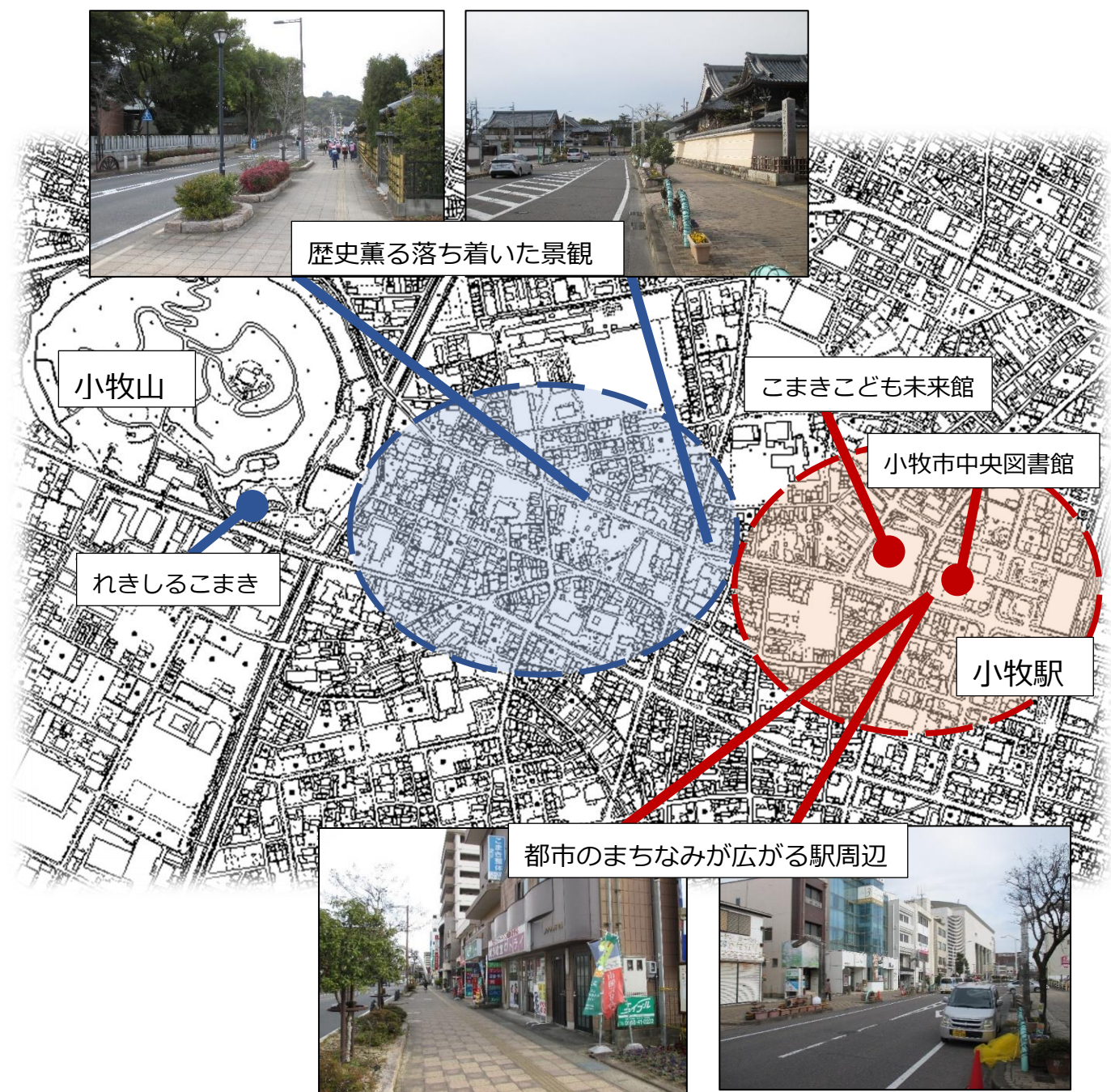
中心市街地グランドデザイン策定方針（案）

1 中心市街地の現状と特性

2 中心市街地グランドデザインの策定背景

小牧市（以下「本市」とする。）はこれまで小牧駅周辺において市街地再開発事業及び土地区画整理事業等の面的な市街地整備を積極的に進めてきました。平成 31 年（2019 年）4 月には小牧山に小牧山城史跡情報館「れきしるこまき」がオープンし、小牧山を取り巻く歴史を発信するための拠点となっています。現在も駅前広場等の再整備に取り組むとともに、「小牧市中央図書館」や「こまきこども未来館」と合わせ、中心市街地活性化の再スタートとする整備を進めています。

また、本市の中心市街地は小牧駅周辺に商業機能と多世代交流機能が集約する一方で、小牧山に近くなるにつれて歴史・文化的資源が多くみられ、歴史薫る落ち着いた景観が広がっています。



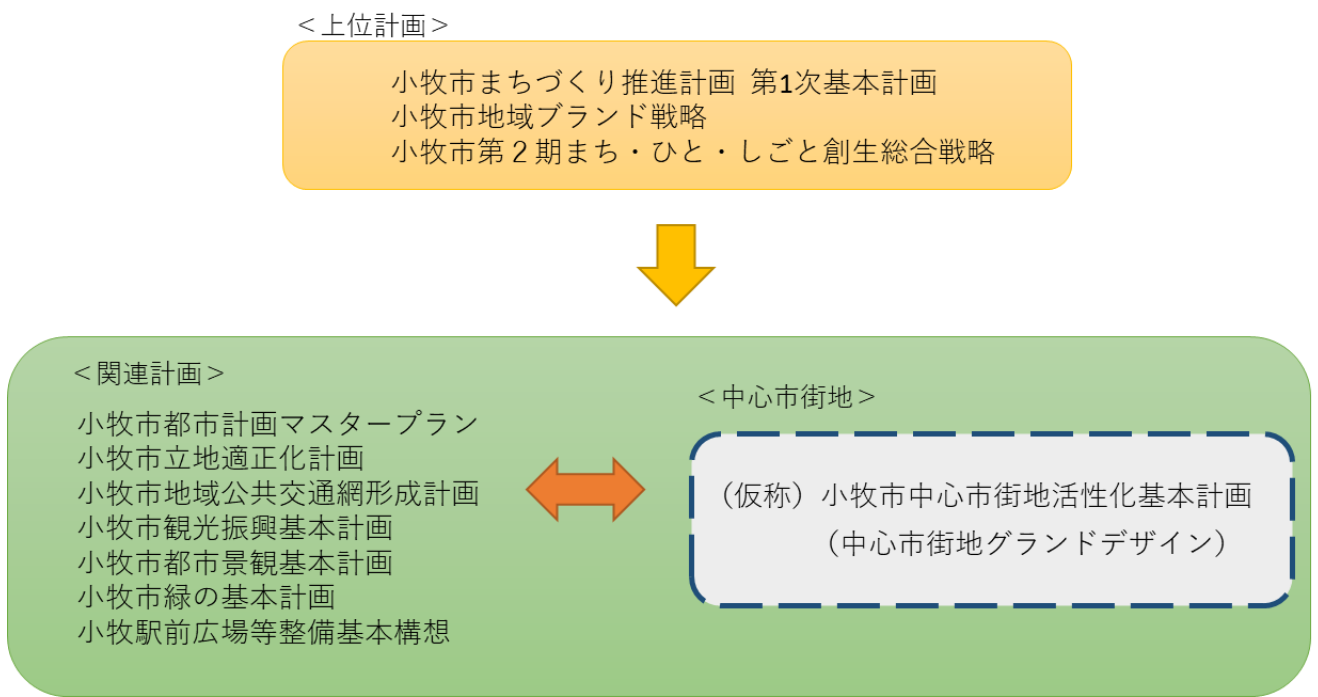
本市では、平成 29 年（2017 年）3 月に「小牧市立地適正化計画」を策定し、小牧駅周辺の中心拠点に都市機能誘導区域（高次都市サービス誘導区域）を定めているほか、令和 2 年（2020 年）2 月に「小牧市都市計画マスタープラン」を改定し、都市づくりを進めています。

なかでも、小牧駅周辺については、駅前広場等の再整備に取り組むなどして、魅力とにぎわいのある中心市街地を創出することとしています。しかしながら近年は、居住者の高齢化や空き店舗数の増加など中心市街地の活力低下が課題となっています。

今後は、小牧駅周辺のにぎわいが、地域資源である小牧山までの間でつながり、将来にわたって魅力と活力の続く中心市街地を目指すために「（仮称）中心市街地活性化基本計画（中心市街地グランドデザイン）」を策定し、中心市街地のフィールドヴィジョンを描きます。

3 位置づけ

（仮称）中心市街地活性化基本計画（中心市街地グランドデザイン）の他計画との関係性・位置づけは以下のとおりとします。



中心市街地グランドデザイン策定方針（案）

4 策定体制

中心市街地のまちづくりの方向性をより具体的で効果的に実現するため、「（仮称）中心市街地活性化基本計画（中心市街地グランドデザイン）」を策定します。

1. 策定のための取組み体制

（1）策定部門の役割

①市長

〔役割〕策定方針に基づき、（仮称）中心市街地活性化基本計画（中心市街地グランドデザイン）の原案を作成し、提示する。

②（仮称）中心市街地活性化基本計画（中心市街地グランドデザイン）策定審議会

〔役割〕市長から提示される計画案に対して助言・提案する。

〔メンバー（案）〕学識経験者、有識者、関係機関、市民の代表 等

（2）都市景観審議会等への状況報告

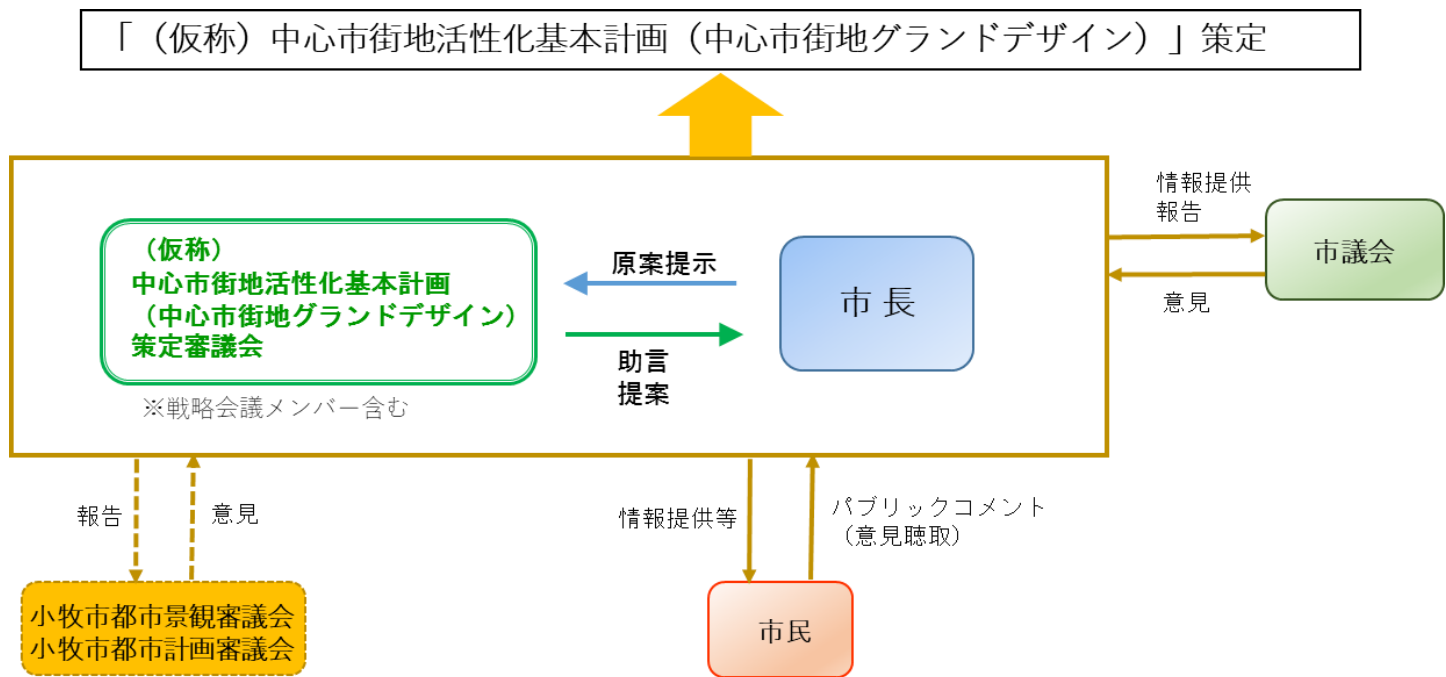
〔役割〕計画案に関する策定状況について報告を行い、意見をいただく。

（3）市議会との情報共有

〔役割〕計画案に関する情報共有や策定状況について報告を行う。

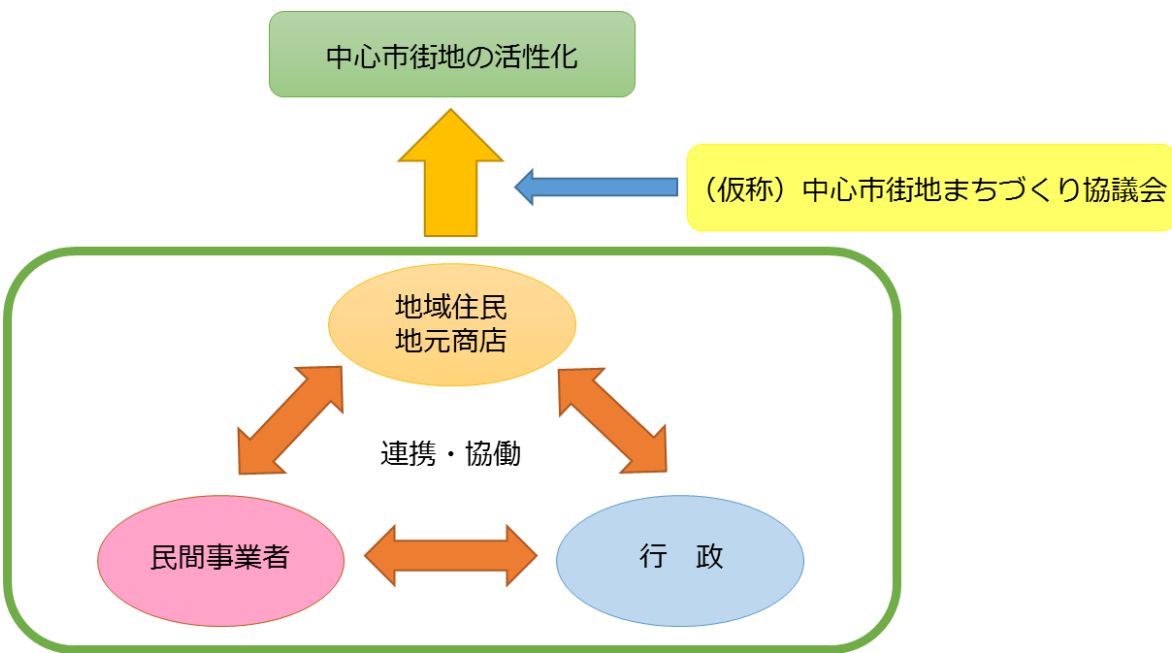
（4）パブリックコメント

〔役割〕パブリックコメントを実施し、市民から意見をいただく。



5 計画の推進

将来にわたって魅力と活力の続く中心市街地を形成するためには、行政だけでなく、さまざまな活動主体やまちづくりの担い手の参加が必要になります。地域住民や地元商店、民間事業者、行政が中心市街地の目指す姿を共有し、それぞれの役割を明確にしたうえで、連携・協働して課題を解決していくための体制・環境を整えます。



また、計画の推進のためには、各施策の実施状況について定期的に点検・評価を行い、その結果を事業実施に反映させていくことが大切です。「（仮称）中心市街地活性化基本計画（中心市街地グランドデザイン）」において指標を設定することで、その進捗状況を定期的に把握します。

指 標 例	中心市街地の居住人口
	中心市街地の空き店舗数
	中心市街地の新規出店数
	中心市街地の来訪者数
	中心市街地の歩行者・自転車通行量

さらに、地域住民や商工会議所等から成る「（仮称）中心市街地まちづくり協議会」を組織し、当事者の目線に立ったチェック体制を確立することで、Plan（計画）－Do（実行）－Check（分析・評価）－Act（改善・改革）のプロセスを踏まえた「PDCA サイクル」に基づき、計画の進行管理と事業の改善を行っていきます。